

# 超学際的 取組みの 推進に向けて

超学際的取組み推進指針概要  
パンフレット&事例集

平成18年1月

超学際

多様な知恵を結集し、  
領域を超えて幅広く連携することにより、  
諸問題の解決を図ること



産



学



民



官

福島県

## 超学際的取組みの推進

福島県では、超学際的取組みを推進するため、平成16年9月に「超学際的取組み推進指針」を策定しました。このパンフレットでは、本指針の内容をわかりやすく紹介し、「持続可能な共生社会」を実現するための戦略として、なぜ超学際的取組みが重要なのか、その意義・必要性などを提示していきます。また、超学際的に取り組むべきテーマ例や事例を紹介するとともに、その取組みを推進するにあたっての方向性を提示していきます。

今後は、本指針に基づき超学際的な取組みを積極的に推進していきたいと考えています。

## 20世紀型社会からの転換

現代は、大量生産、大量消費、大量廃棄などに見られる20世紀型社会経済システムを背景に、物質的豊かさを享受する一方で、環境問題、資源・エネルギー問題、食料・水問題、人口問題、大都市問題など、自然環境から社会経済環境に至るまでの複雑で互いに絡み合った問題に直面しています。これらの問題は、例えば、地球温暖化等の環境問題が私たち一人ひとりの日常生活に密接に関連するなど、一つの分野や領域のみで解決することが困難な状況にあります。

背景  
(社会経済情勢と時代潮流)

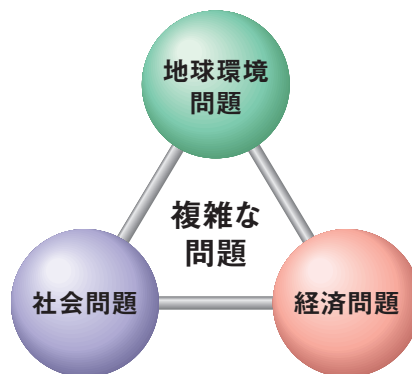
### 地球環境問題の顕在化

- 地球環境の破壊
- 持続性の喪失
- 地球環境問題から人類存続そのものの危機へ

### 複雑に多元化した社会経済

- 20世紀型社会経済システムの行き詰まり
- 国際化の進展—グローバルズムとローカリズム—
- 地域の諸問題
- 安全・安心な地域社会
- 科学技術の問題
- 協働型社会への移行
- 少子高齢社会の到来
- 超情報化社会への移行—高度情報化の次の社会—

### 20世紀型社会の問題



## 21世紀型社会像 —本県が目指すべき目標—

現代は、経済的効率性等を重視する「競争の論理」に導かれた、20世紀型の競争社会を基調として成り立っています。

21世紀の社会は、現在の複雑・多岐にわたる問題に見られるような20世紀型社会経済システムの行き詰まりの状況を考えれば、社会や経済のあり方など枠組み自体を変える必要があり、互いの違いを認め合い共存していくといった、「共生の論理」を基調とする創造的で心豊かな共生社会を目指す必要があります。

### 21世紀型社会像

20世紀の社会  
経済的効率性等を  
基調とする競争社会

現代社会の  
危機的状況

共生の論理

競争の論理

### 目指すべき社会像

21世紀の社会  
創造的で心豊かな  
共同体

21世紀の社会  
従来通りの容赦のない  
競争社会

以上のことを踏まえ、これからの21世紀を真に豊かな社会とするため、私たちが今後の社会生活を営む上で目指すべき目標を以下のとおり提示することとします。

## 福島県が目指すべき目標: 持続可能な共生社会の実現

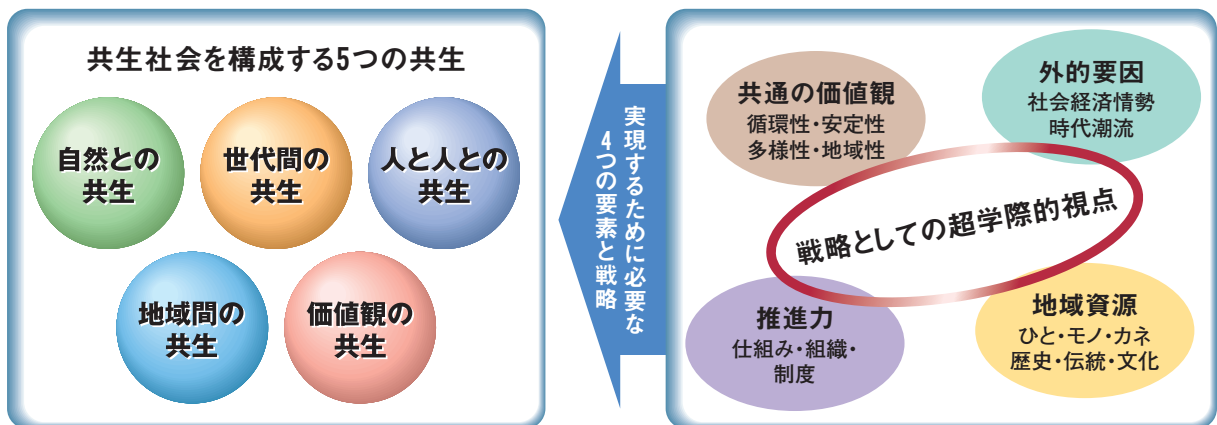
**持続可能な共生社会とは:**

- 多様な選択肢が保証された中で一人ひとりが「個」としての尊厳を認め合い、支え合うことによって人間が人間らしく生きられる社会
- 地球環境や未来世代にも配慮した社会的、経済的、環境的に持続可能な共同体

## 5つの共生と共生社会を実現するための戦略としての超学際的視点

本県が目指すべき目標である「持続可能な共生社会」は5つの共生で構成されています。この「共生社会」を実現するためには、社会経済情勢などを踏まえるとともに、地域資源の有効活用や組織、制度等の推進力を整備するなど具現化するための取組みが必要です。

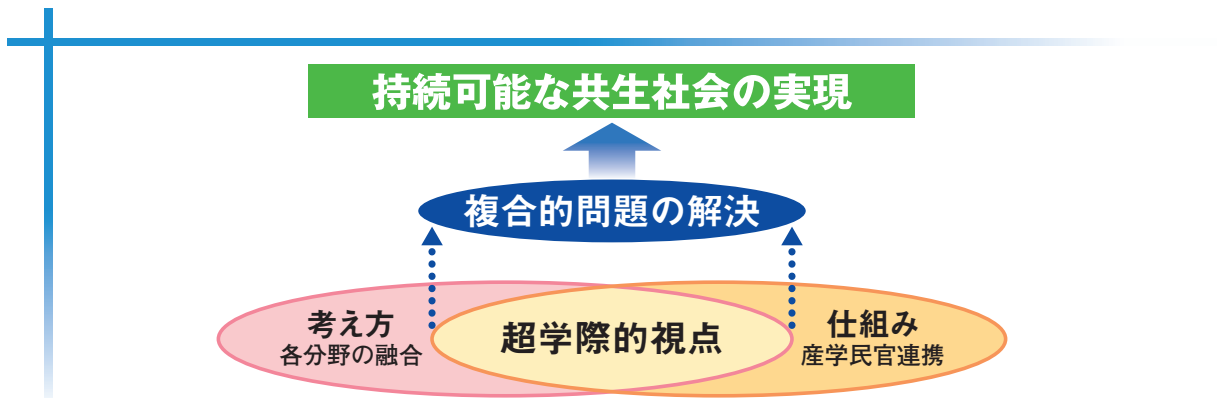
そして、最も重要になるものがそれらをつなぎつける戦略としての「超学際的視点」であり、今後はこの超学際的視点を踏まえた取組みの推進が求められるところです。



## 超学際とは

「超学際」とは、それぞれの分野・領域を超えて多様な知恵を結集するとともに、産学民官の各主体が幅広く連携することにより、諸問題の解決を図ることをいいます。

「超学際」は、持続可能な共生社会を実現していく上で極めて重要な戦略であり、現代に見られる複雑・多岐にわたる問題を解決するためには、超学際的視点の導入が必要となります。



## 超学際的に取り組むべきテーマ例の提示

持続可能な共生社会を実現するためには、実際の社会生活が営まれている地域において、それぞれの地域課題に応じた超学際的な取り組みを具体的に推進していく必要があります。

このようなことから、今回、超学際的な取り組みが求められる施策等を示すため、施策の方向性と超学際的に推進すべきテーマ例を下記の考え方に従って提示していきます。

### 《テーマ例提示における考え方》

- 5つの共生を踏まえたテーマ例の提示（価値観の共生は共通事項）
- 4つの要素と戦略としての超学際を踏まえたテーマ例の提示
- 県長計の5つの施策体系を踏まえたテーマ例の提示

### 《施策の方向性と超学際的に推進すべきテーマ例》

	自然との共生から導かれるテーマ	世代間の共生から導かれるテーマ	人と人との共生から導かれるテーマ	地域間の共生から導かれるテーマ
施策の方向性	○自然循環の保全・資源循環の確保が図られた社会（循環型社会）の構築	○将来世代にわたる知恵・文化の継承（温故知新） ○将来の社会を支える人づくり ○将来世代にわたる地球環境・地域環境の保全	○互いの個性を認め合い、多様な生活様式が尊重される社会の構築 ○ともに支え合う安全・安心なコミュニティの構築 ○たくましく、創造性豊かな人材育成	○分散と連携による自立した地域づくり ○産学民官連携による地域活性化
超学際的に推進すべきテーマ例	○新エネルギーの総合利活用 ○バイオマス（生物由来の有機性資源）の総合利活用 ○流域ネットワークによる水循環の保全と再生 ○土壌資源の保全対策と循環 ○環境に配慮した持続可能なまちづくり	○世代を超えて知恵・文化を継承する仕組みづくり ○うつくしいものづくりの推進 ○安心して生み育てられ、いきいきと育つことができる子育て・子育て環境の整備 ○環境学習・教育による持続可能な共生社会の実現 ○世代間で築く美しい景観づくり ○多様な主体の参加と連携による地球温暖化対策	○地域資源を核とした新しいビジネスの創生と地域経済の活性化 ○顔の見える安全・安心な地域コミュニティ再生 ○スローフード、スローライフ運動による豊かな地域社会と元気な地域産業の創出 ○異文化を有する人々の自立、社会参加が促進される多様な文化が共存できる社会の構築 ○地域コミュニティにおけるリスクコミュニケーション（情報・意見交換）の推進	○都市・農村交流の活性化による地域振興 ○大都市問題と過疎化対策 ○地域資源を活用した産学民官連携による産業振興 ○新しい交通政策による環境保全と地域活性化

現在、県内各地で持続可能な共生社会を実現するため、産業界、大学、NPO、行政などの各主体が連携した取り組みが行われています。

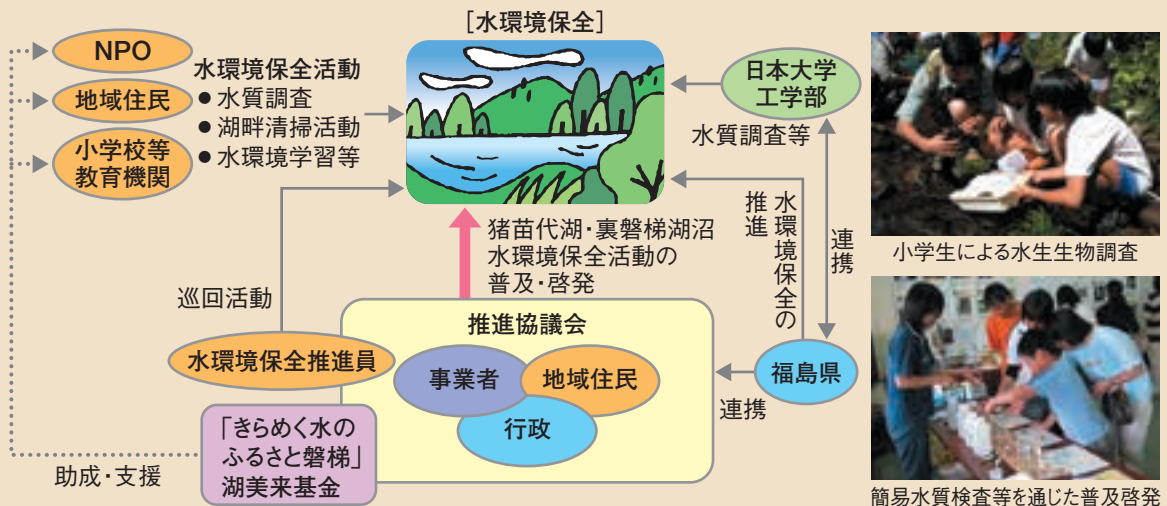
ここでは、超学際的な取り組みとはいったいどのようなものなのか具体的に示すため、連携や協働といったような超学際的な取り組みを実際に実施している団体等の事例を、4つの共生ごとにあわせて14事例紹介します。

## 超学際的取り組み事例 —自然との共生—

### 自然との共生の事例

#### 「猪苗代・裏磐梯湖沼水環境保全対策推進協議会」を中心とした水環境保全活動

「猪苗代・裏磐梯湖沼水環境保全対策推進協議会」では、猪苗代湖や裏磐梯湖沼群流域の水環境の保全を推進するため、地域住民、事業者、行政などと連携して、普及啓発活動、研修会等の開催、水環境保全活動等への支援や協力などの取り組みを行っています。

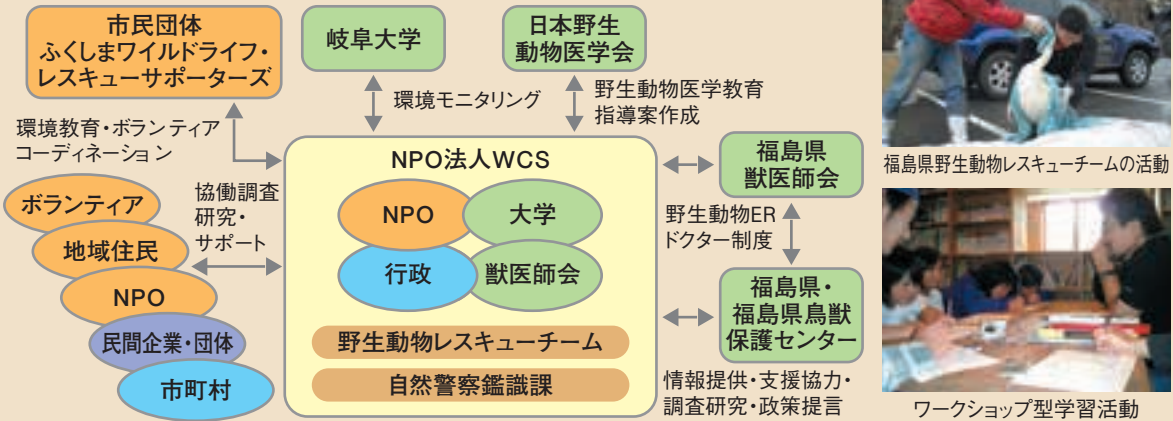


## 超学際的取組み事例 —自然との共生—

### 自然との共生の事例

**NPO法人「ふくしまワイルドライフ市民&科学者フォーラム (WCS)」を中心とした野生動物の保護・救護活動**

NPO法人「ふくしまワイルドライフ市民&科学者フォーラム (WCS)」では、生物多様性の保全や生物の生存権の確立に貢献するとともに、自然と人間の共生社会の実現を図るため、県鳥獣保護センター、地域住民、ボランティア、NPO、獣医師会等の団体、大学、行政などとの連携を通じて、野生動物の保護や救護に関わる科学的な調査・研究、それらの活動を行うボランティアの支援、各団体のネットワークづくりや総合調整などの取組みを行っています。



福島県野生動物レスキューチームの活動

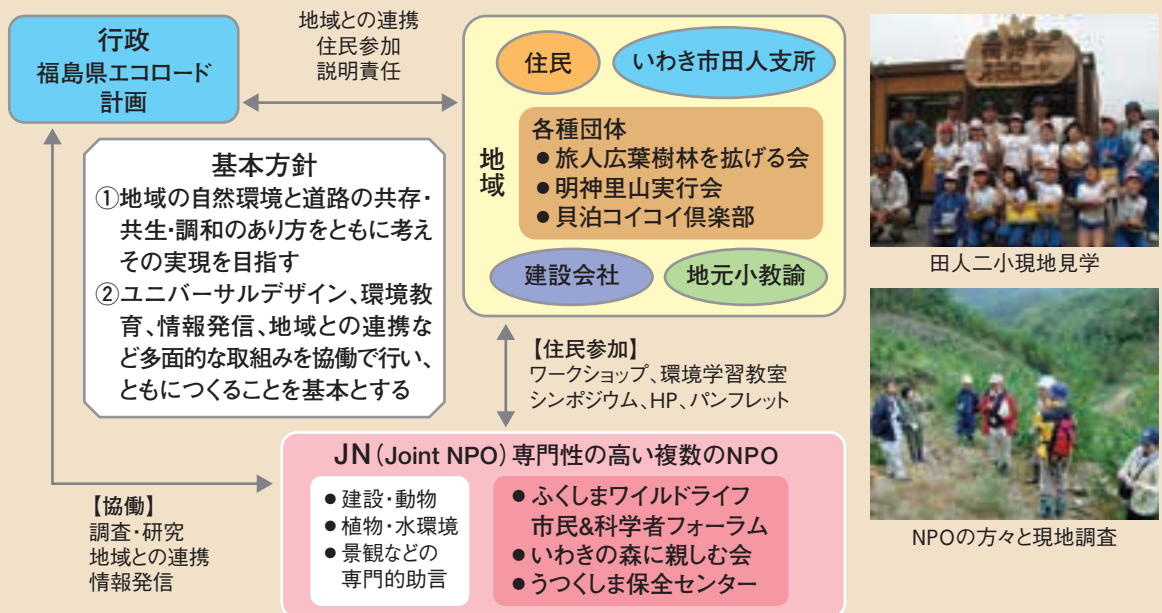


ワークショップ型学習活動

### 自然との共生の事例

**国道289号・荷路夫 (にちぶ) バイパスエコロードの自然環境と共存・調和した道路整備の取組み**

国道289号のいわき市田人町荷路夫地内は急カーブ・急勾配の交通の難所のため、それらの解消を目的としてバイパス工事が事業化されました。この地域は豊かな自然が残されており、環境への負荷をできるだけ少なくするため、動植物・生態系などの自然環境に配慮した「エコロード」として整備を進めています。そのため、研究会を立ち上げエコロードの基本方針を策定するなど、協働のパートナーとして「ともに考え、ともにつくる道づくり」を行っています。



田人二小現地見学



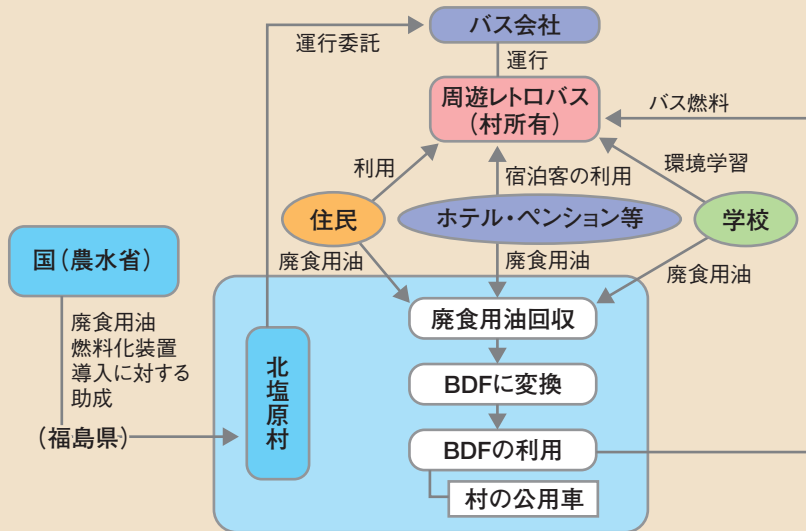
NPOの方々と現地調査

## 超学際的取組み事例 —自然との共生—

### 自然との共生の事例

廃食用油を回収し、バスの燃料などに生まれ変わらせる  
環境リサイクル型の村づくりの取組み

北塩原村は、くらし・観光・農業を支える河川や湖沼の水資源を守るため全村下水道化を進めてきました。ただし廃食用油は下水道設備に多大な負荷をかけることから、村が廃食用油を回収して、BDF（バイオディーゼル燃料）に再生し、裏磐梯を周遊する路線バスの燃料などに使用することにしました。ホテルやペンションだけでなく、一般家庭も回収に協力し、村を挙げての環境リサイクル型の村づくり、エコツーリズムの促進に取り組んでいます。



桧原湖周遊レトロバス「森のくまさん」

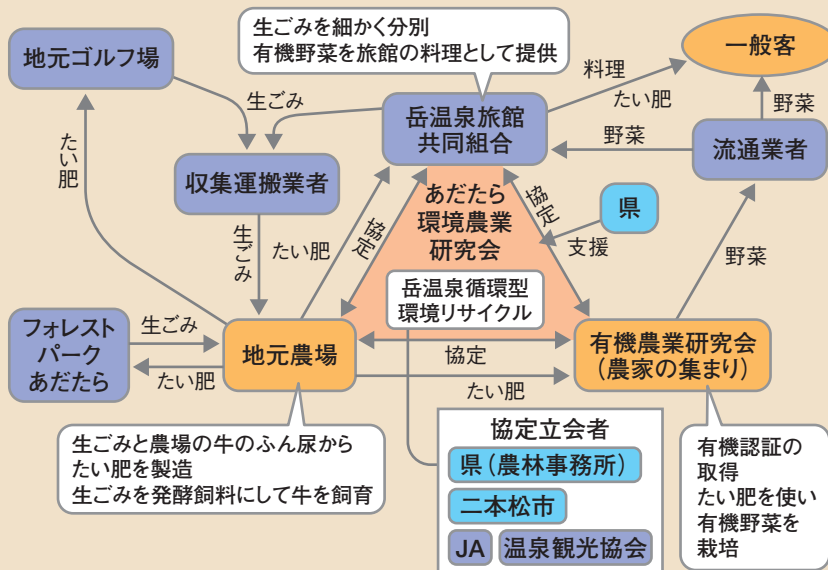


廃食用油リサイクル作業

### 自然との共生の事例

旅館から出る生ごみからたい肥をつくり、それを使って有機野菜を  
育て、また旅館で使用する循環システムの取組み

岳温泉では、旅館から出る生ごみを地元の農場まで運び、そこでたい肥化し、それを使って地元の農家が育てた有機野菜を旅館の料理に出すという、循環型農業に取り組んでいます。旅館協同組合と有機農業研究会、地元農場の三者で研究会を組織するなど、地域内で循環するシステムを構築しています。



旅館の生ごみと農場の牛ふんから作られた  
たい肥「きらきら有機リサイクル」



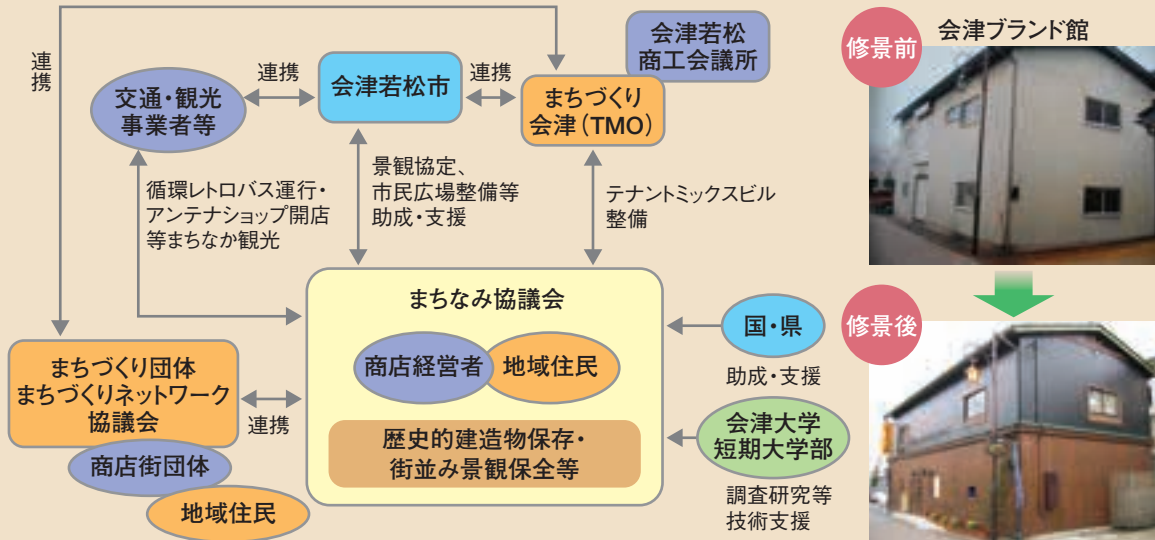
有機栽培の畑を視察する旅館関係者

## 超学際的取組み事例 ー世代間の共生ー

### 世代間の共生の事例

「七日町通りまちなみ協議会」を中心とした  
歴史・伝統・文化を伝えるまちづくり活動

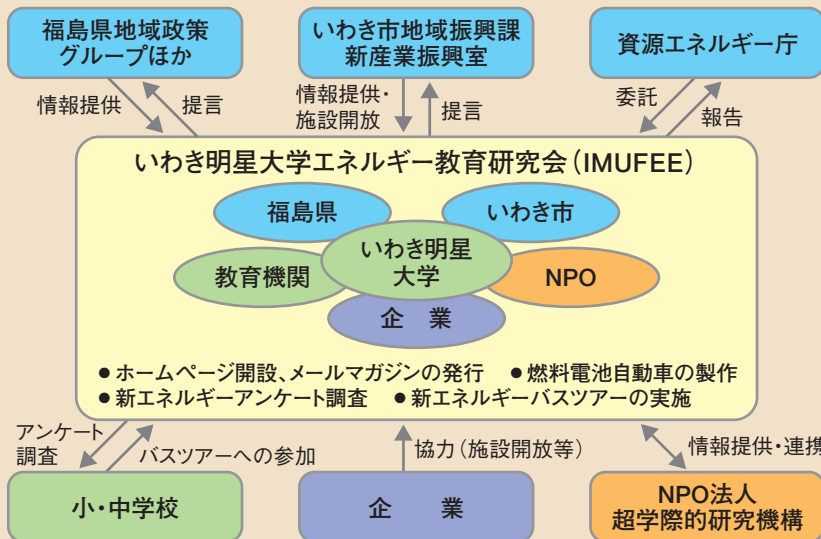
「七日町通りまちなみ協議会」では、今なお残る古く味わいのある建物を活用して、城下町らしい特色のある商店街再生や地域コミュニティの再構築を図るため、「大正浪漫調」のまちづくりを基本理念に、商店経営者、地域住民、交通・観光事業者、TMO、行政などと連携して、歴史的建造物の保存と街並みの修景、空き店舗利活用など歴史・伝統・文化を生かしたまちづくりを行っています。



### 世代間の共生の事例

「いわき明星大学エネルギー教育研究会」を中心とした  
地域連携による新エネルギーの普及・啓蒙活動

いわき明星大学では、経済産業省資源エネルギー庁の委託事業である「エネルギー教育に関する研究・実践を推進する地域拠点大学」に選定され、新エネルギーの普及・啓蒙活動を学校教育の立場から、体験学習を基盤として推進するため、「いわき明星大学エネルギー教育研究会（略称:IMUFEE）」を組織し、地域連携による新エネルギー実践教育プログラムの開発を目的として、様々な活動を実施しています。



新エネルギーバスツアー  
(太陽光発電パネル見学)



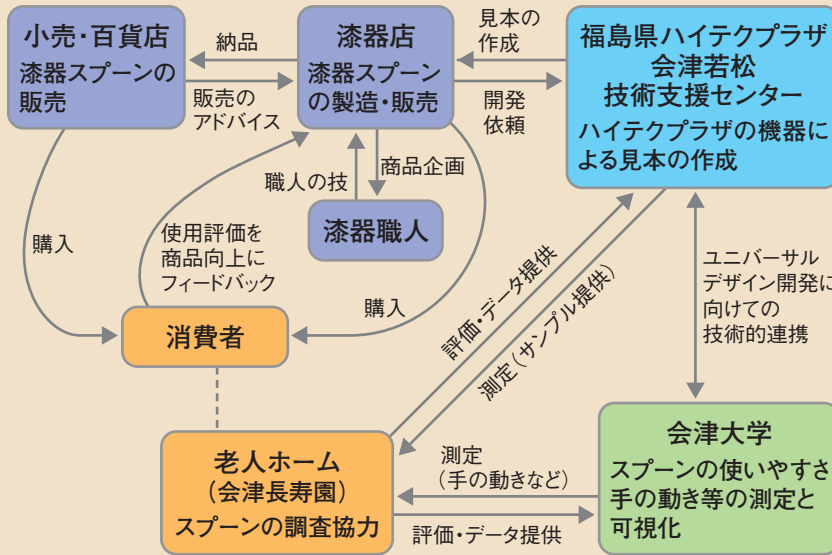
燃料電池自動車を中学生に説明

## 超学際的取組み事例 一人と人との共生

### 人と人との共生の事例

ユニバーサル・デザインの考えに基づいた地場産業（会津塗り）によるスプーンの開発の取組み

ユニバーサルデザインを取り入れた製品開発が、産業工芸分野も例外ではなく急務になっており、会津の伝統工芸であり地場産業の会津塗りを生かしたスプーンを開発しました。漆器店、伝統工芸士、行政、大学などが連携し、老人ホーム入所者、介護者の協力を得ながらサンプルの使いやすさ等を測定しながら開発したものであり、現在発売されています。



サンプルスプーンの評価状況

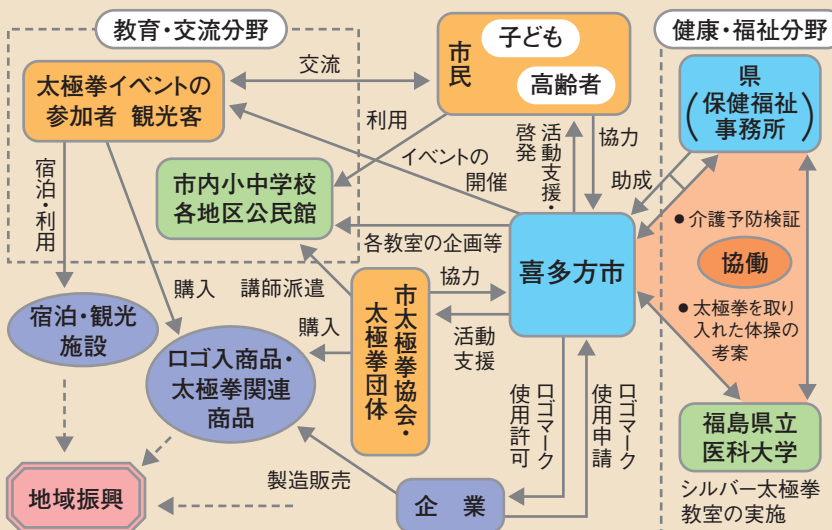


完成した漆塗り木製スプーン

### 人と人との共生の事例

太極拳による新たな価値の創造と、「健康・福祉・教育・交流」の調和のとれた元気なまちづくり

喜多方市は「うつくしまねりんピック2002太極拳交流大会」を契機に、愛好者の増加、交流の輪が広がったことから、平成15年3月に「太極拳のまち」を宣言しました。市民の太極拳活動のサポートのほか、太極拳イベント等の開催、シンボルマーク・ロゴの制定、また太極拳が心身に与える効果を科学的に検証し介護予防に役立つ事業などを実施し、子どもからお年寄りまで幅広い年代層が太極拳に親しむ元気なまちづくりを進め、全国に発信しています。



第2回太極拳フェスティバル



シルバー太極拳教室

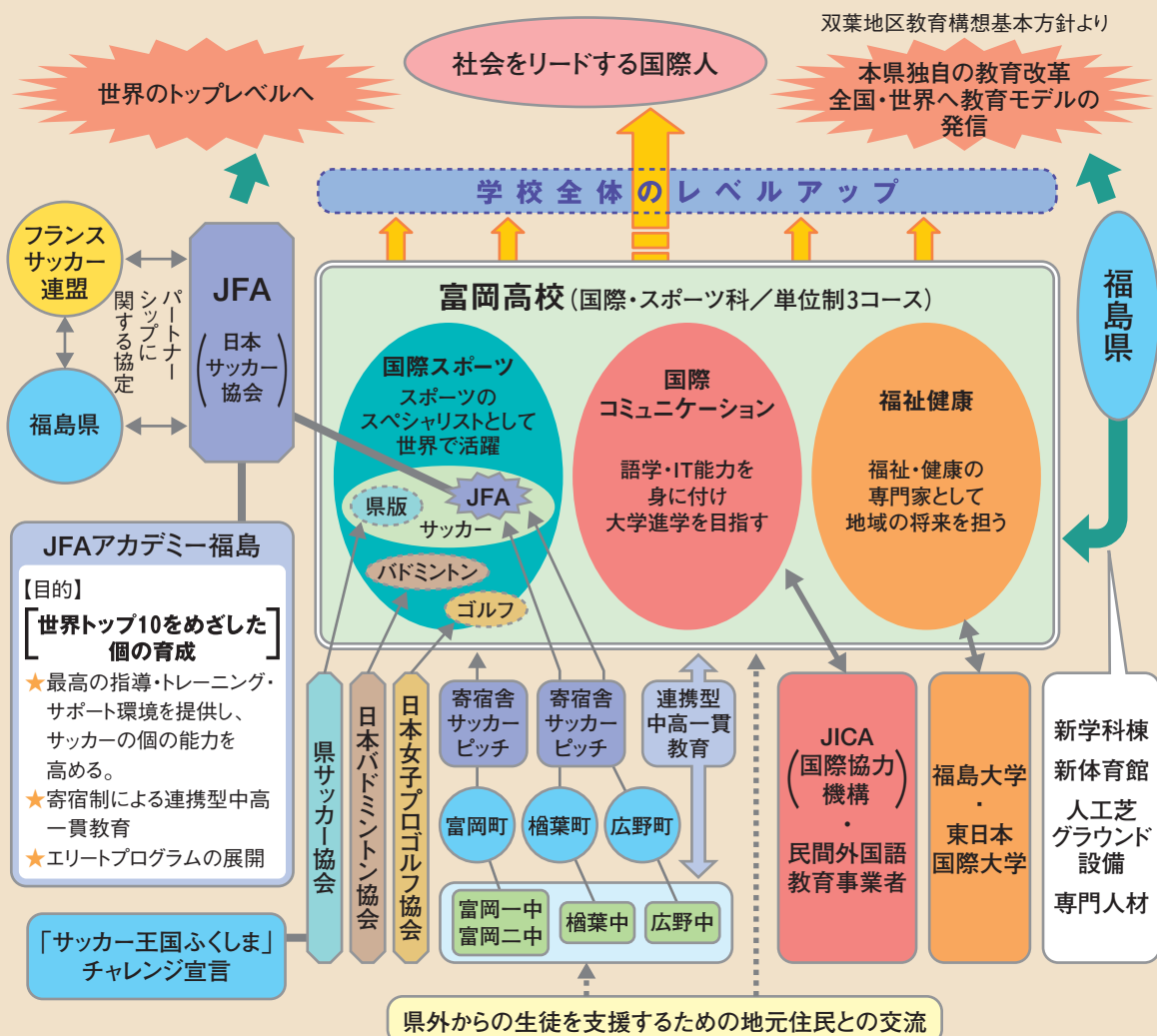
## 超学際的取組み事例 一人と人との共生

### 人と人との共生の事例

サッカーエリートプログラム「JFAアカデミー福島」と  
中高一貫教育による人材育成の取組み

日本サッカー協会は、2006年度より、福島県、広野町、楡葉町、富岡町との連携により、「JFAアカデミー福島（サッカーによる国際人育成事業）」をスタートします。将来、日本サッカーを背負って立つ選手を輩出することを目的に、県と関係町が行う中高一貫教育と連携して行う取組みで、サッカー選手としてのみならず、社会をリードする世界基準の人材育成を目指したものです。

福島県は、富岡高校を「国際コミュニケーション」・「福祉健康」・「国際スポーツ」の3コースからなる「国際・スポーツ科」を設置する単位制高校として、サッカー、バドミントン、ゴルフのアスリートだけでなく、国際社会で活躍できる人材、福祉のスペシャリストなどを、様々な団体・機関と連携しながら育成することとしています。



富岡高校完成予想図



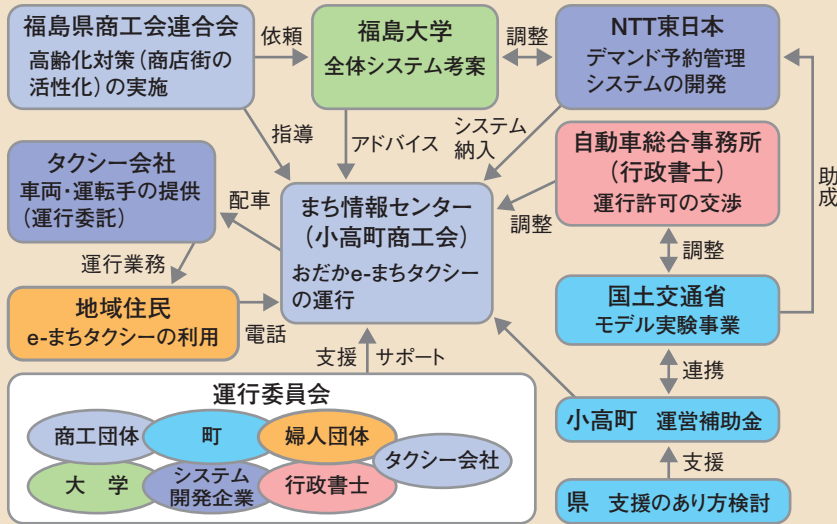
JFAアカデミー福島セレクションのようす

## 超学際的取組み事例 一人と人との共生

### 人と人との共生の事例

おだかe-まちタクシーの運行による高齢者にやさしい町づくり、まち全体の活性化に向けた取組み

「おだかe-まちタクシー」は、高齢者など住民の交通手段の確保のために、バスより便利でタクシーより安価な仕組み（デマンド予約管理システム）を全国で初めて開発し、平成13年6月より運行を始めたものです。予約をすればタクシーが家まで迎えに来て、乗り合いをしながら町内の目的地まで運んでくれるだけでなく、予約のないときは運行しないなど効率的な運行を行っています。e-まちタクシーの利用が進むにつれて、高齢者の外出機会の増加、それに伴う商店街への来客数の増加など、まちなかに賑わいが戻りつつあります。



まち情報センターとe-まちタクシー



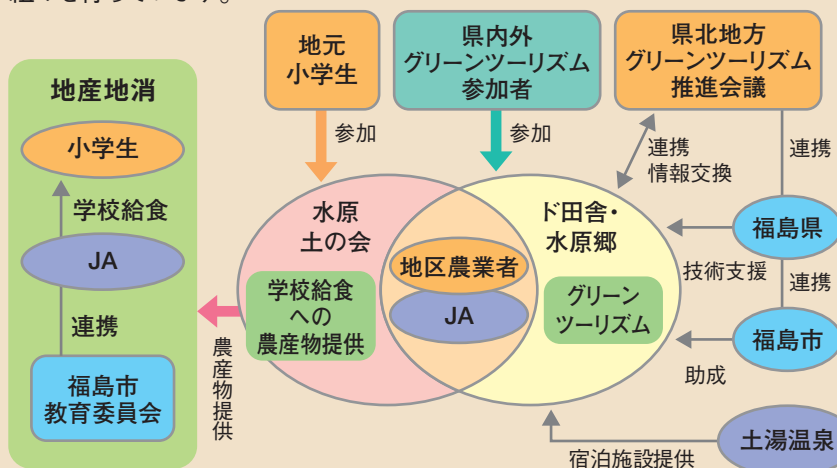
e-まちタクシーの配車システム

## 超学際的取組み事例 地域間の共生

### 地域間の共生の事例

「ド田舎・水原郷」を中心としたグリーンツーリズム活動

「ド田舎・水原郷」では、地域の恵まれた自然環境と農村の素晴らしさを生かして、農家、農協、温泉宿、行政などとの連携により、「人と人のふれあい」、「人と自然のふれあい」を目指したグリーンツーリズム活動を行っています。また、農業の大切さや素晴らしさを知ってもらうことを目的に、同じ地区の農業者らで組織する「水原土の会」では、地元小学生が参加した中で、学校給食への農作物の提供を行うなど地産地消の取組みを行っています。



ジャガイモ掘り体験



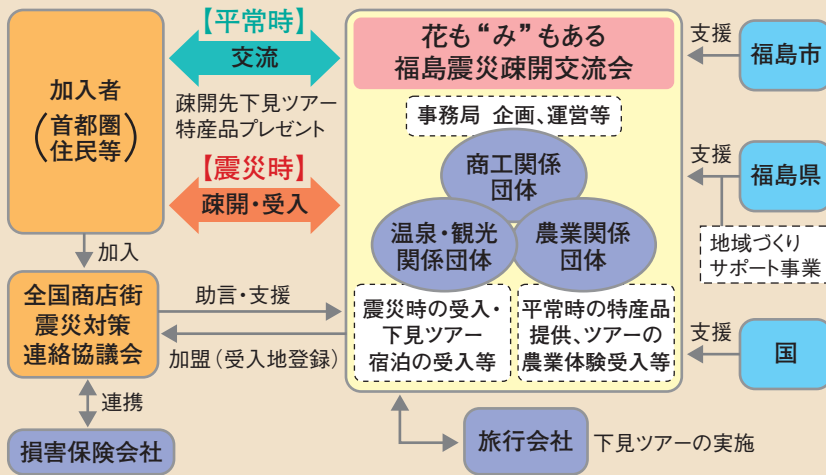
そば打ち体験

## 超学際的取組み事例 —地域間の共生—

### 地域間の共生の事例

「花も“み”もある福島震災疎開交流会」を中心とした  
福島の良さをPRし、首都圏との交流を図る取組み

「震災疎開パッケージ」とは、加入者が地震等の災害により被災した場合に、受入地として登録している全国の各地へ一定期間疎開できるといった仕組みを商品化したものです。平常時には、疎開先下見ツアーや特産品の提供などにより購入者と疎開受入地との交流を深める取組みを行います。「花も“み”もある福島震災疎開交流会」では、この「震災疎開パッケージ」の疎開受入地として登録し、平常時の疎開先下見ツアーの開催等を通じ、商工関係団体、観光関係団体、農業関係団体、行政等が連携して、安全・安心な福島をPRし、地域間交流を推進する取組みを行っています。



震災疎開下見ツアー（民家園見学）

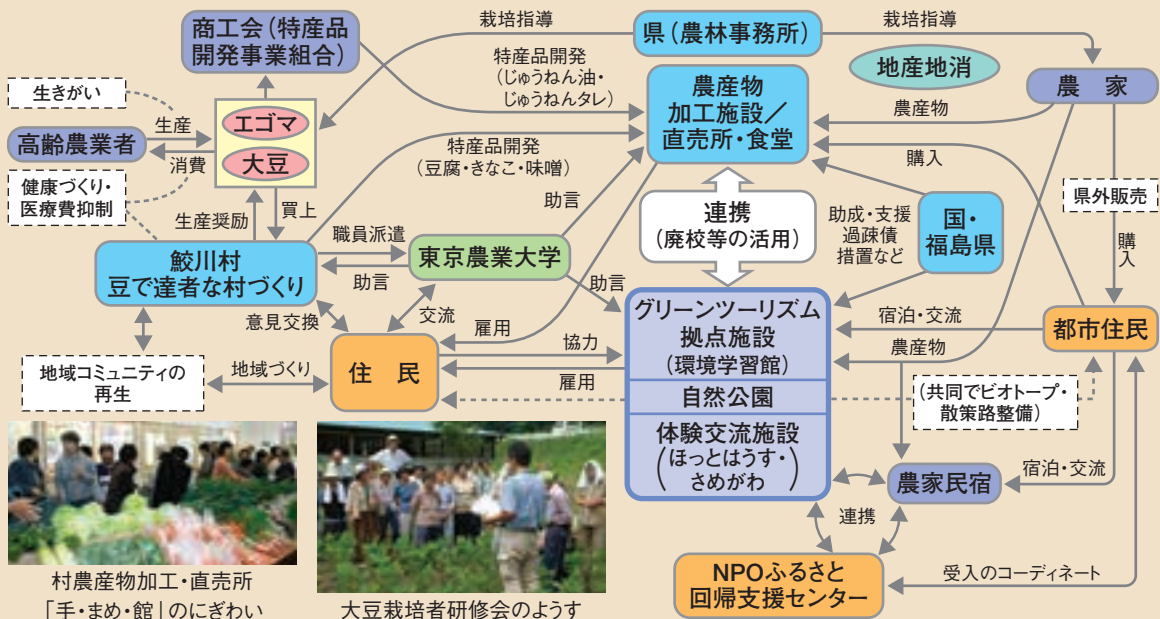


震災疎開下見ツアー（農作業体験）

### 地域間の共生の事例

農産物加工やグリーンツーリズムによる地域活性化等を目指した  
「豆で達者な村づくり」の取組み

鮫川村では、特産品である大豆・エゴマの栽培、特産品への加工や、農村景観・自然の豊かさを活かすグリーンツーリズムを、地域住民をはじめ、学識経験者や都市住民からの意見を反映しながら、地域活性化、雇用創出、都市との交流につなげる取組みを進めています。



村農産物加工・直売所「手・まめ・館」のにぎわい



大豆栽培者研修会のような

# うつくしま 超学際ネットワーク

## うつくしま超学際ネットワークとは

「産(企業)」・「学(大学や研究機関)」・「民(NPO法人や一般県民)」・「官(行政)」が連携し、超学際的取組みを推進するための活動の拠点です。

### 利用 対象者

「超学際」について関心のあるNPO法人や団体・個人等、「超学際」に関連する活動を行う方ならどなたでも利用できます。

### 業務 内容

うつくしま超学際ネットワークは、利用対象者が自由に使えるフリースペースとして、交流の場や打ち合わせスペースなどを提供します。活動に関連する各種相談や、大学や研究機関、企業、NPO団体などとのコーディネートを行います。また、情報収集や簡単な資料作成のための機器も貸出します。

場 所 コラッセふくしま7階  
福島市三河南町1番20号  
TEL 024-535-9520  
FAX 024-535-9521  
E-mail info@chogakusai.ecnet.jp  
URL <http://www.chogakusai.ecnet.jp>

開館時間 月曜日～金曜日  
午前10時から午後7時まで

管理運営 特定非営利活動法人  
超学際的研究機構

## 超学際的取組みの推進に向けて

超学際的取組み推進指針概要版パンフレット&事例集

平成18年1月



うつくしま、ふくしま。

## 福島県企画調整部首都機能移転・超学際グループ

〒960-8670 福島市杉妻町2番16号  
TEL: 024-521-7129 FAX: 024-521-7911  
E-mail: [pc-capital@pref.fukushima.jp](mailto:pc-capital@pref.fukushima.jp)